

「資料」

小学校における教育実地研究について

学部と附属の共同研究
「教育実地研究のあり方」グループ

はじめに

本グループでは、2005年度、2006年度は「学生に身につけさせたい資質」の面から教育実地研究について議論を重ねてきており、関連する論文についても本紀要に発表した（寺嶋ら2006、寺嶋ら2007）。

2007年度からはその成果を基盤としながら、学部の教育実地研究にかかわるカリキュラム（事前指導・教育実習・事後指導）の改善を試みている。学部と附属校・園が現在行われている具体的な内容について意見交換をし、情報を共有しているが、本報告においては、小学校における教育実地研究の概要（主として主免実習を対象としている）を教育学部および附属校・園教員にも広く紹介することで、学生の指導に役立てていただくことを考えた。

教育実地研究に関する学部と附属校・園の情報共有は、これは今後も続けていく方針である。できることなら学部教育だけではなく、共同実践研究にも関連するような形に発展させていきたい。2008年度には学部内の情報交換会を予定している。

なお、今回の資料のうち、事後指導に関するものは、教育学部初等教育講座の先生方からご提供いただいた。貴重なお時間を割いて、実施状況についてお答えいただいた先生方、および取りまとめいただいた事後指導担当者の森下浩史教授、次年度担当者の宮内香織准教授に感謝申し上げます。

（寺嶋浩介（教育実践総合センター・グループ代表者））

1. 事前指導について

附属小学校長および学部教員から、附属校での実習に対する心構えについて伝えられたのち、a班、b班に分けられ、附属小学校教員による下記の内容のリレー講義がなされる。中には、附属小学校の子どもが学生の目の前で発表し、子どもの姿を直接伝える場面も含まれている。附属小学校教員は、多くは担任などの業務を抱えながら、事前指導に当たるため時間の確保が難しい。また、時間数が少ないため指導案などにかかわる指導の時間の確保が困難であるため、学部のそのほかの授業で取り上げることが望まれている。

- ・学校・教師の役割について
- ・子どもへの生活指導について
- ・学習指導について

- ・複式学級の指導について
- ・総合的な学習の時間について
- ・給食指導・保健指導について

2. 附属小学校での教育実習について

10月に行われる小学校主免実習を例にすると、実習生が授業を実習するまで以下のように進められる。具体的なスケジュール事例は巻末に添付する。この資料では、8名の実習生がひとクラスにいる。以下のプロセスを8人分、教員は同時並行で実施していく必要がある。なお、附属小学校では、担任も実習生も、放課後遊び・下校までは、子どもと共に過ごすため、自分の授業準備ができるのは、16時30分（低学年は15時30分）ごろからである。

現在取れる対策としては、打ち合わせ日程をできるだけ前倒しにして行うという点である。(1)を早い時期にできれば、それ以降の予定にも余裕が出てくることが予想される。また、(2)にすぐに入れるよう、事前に指導案執筆の基礎などを実習生が会得できるようなカリキュラムも望まれよう。

(1) 指導教官との打合せ①

教科、単元名、第何時、授業日程を決定する。

(2) 学習指導案作成

ひとりの実習生が期間中に授業を3度実施する。

- ・第1回目の授業は本時のみの展開案（ねらい、展開TP形式、評価）を書く
- ・第2回目は、学習指導案の略案（学習指導案の鑑を除いたもの）を書く
- ・第3回目は、学習指導案を書く

(3) 指導教官との打合せ②

作成した上記(2)学習指導案についての指導が行われる。

(4) 教材作成

上記(3)を基に、学習指導案の手直しを行い、教材（資料、文カード、ワークシート等）を作成する。

(5) 模擬授業

指導教官及び同学級配当の実習生とで模擬授業を参観する。担当教官からの指導、及び、実習生同士での意見交換を行う。

(6) 本時授業

上記(5)模擬授業の反省を生かして本時の授業を行う。

(7) 授業反省会

本時授業について、担当教官からの指導、及び、実習生同士での反省会を行う。

3. 事後指導について

終了後の事後指導は教育学部の大学教員が担当する。1時間目にオリエンテー

ション, 2 時間目に教職や教育実践について反省や議論を通して全体的な振り返りを行った後, 3 時間目以降は 1 時間ずつ各教科指導法についての授業が実施される。テーマ例としては以下のようなものがあげられる。

- ・説明文とブックトークに関する指導上の留意点 (国語)
- ・指導と評価の一体化 (音楽)
- ・教材研究の重要性, 問題解決型の授業構成 (算数)
- ・素材研究と教材研究の重要性, 教授活動について (体育)

各教科の指導では, 教員が設定したテーマについて, 実習生の授業ビデオや写真, 学習指導案等を活用し, 授業に取り組んでいる。各授業で共通しているわけではないが, 参考となる講義上の具体的な留意点としては以下のようなものがあった。

- ・教育実習生の授業を解釈したり, より望ましいものへと再構成したりする活動を取り入れた
- ・実習生は 1 つの学年のことしか分からないので, 子どもの実態やその実態に合わせた教師の対応の違いを学ばせるために, 低・中・高学年の 3 つを意図的に取り上げた
- ・附属校教員への事後アンケート等を活用した
- ・その他の講義科目と関連させた指導を行った

1 時間のみの授業であるため, 十分な内容が取り扱えないという点に課題があるが, 逆にいえば全学生を対象に, 実習後に各教科に関する講義できる貴重な機会となっている。

おわりに

本資料は専門的な内容を追求するものではなく, どちらかといえば, 教育実地研究の全体像を把握し切れていない大学学部, 附属校・園の教員や今後教育学部にかかわる方のためのガイドとして執筆されたものである。もしわからない点があれば, 本研究グループの教員にお問い合わせいただきたい。

また, 今後も学部と附属校・園の情報共有を進めていきたいと考えている。

<参考文献>

- 寺嶋浩介・小原達朗・古野祐一・坂口洋介・田中秀明・寺田弥寿子・中里かをる・高谷有美 (2006) 体験を重視した教育実地研究カリキュラムの構成要素—長崎大学教育学部附属 4 校園を対象とした分析を通して—『長崎大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』5 pp.1-12.
- 寺嶋浩介・林朋美・田中秀明・原京子・寺田弥寿子・中里かをる・高谷有美・坂口洋介・小原達朗・龍造寺裕則 (2007) 教員養成のための資質リストの開発—学部と附属校園の共同研究を通して—『長崎大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』6 pp.49-57.

平成 19 年度 10 月主免教育実習授業計画例 (5 年 1 組)

週			1 校 時	2 校 時	3 校 時	4 校 時	5 校 時	6 校 時	備 考
A	4	木		理科	出(学級)の会	出(複式)の会			実習開始日 ABCDEFGH打合せ①
	5	金		進捗実習 (全員参観)	進捗実習 (全員参観)	進捗実習 (全員参観)	音楽		
	6	土							
B	7	日							
	8	月							
	9	火	理科 (長田総論)	複式授業参観 (低学年) (長田総論)	複式授業参観 (中学年)	複式授業参観 (高学年)		クラブ活動	A1B1 指指導案指指導
	10	水					体夢(田)	体夢(田)	C1D1E1F1G1H1 指指導案指指導
	11	木	A1	理科 (変更?)	体育		B1		E1F1G1H1 指指導案指指導
	12	金	家庭	家庭	英語	※学年授業	C1	D1	G1H1F1C1D1 指指導案指指導
	13	土							
A	14	日							
	15	月	図工	図工	E1		F1		A1B1C1D1E1F1G1H1 指指導案指指導
	16	火	理科	G1		H1	体育	クラブ活動	C1D1A1B1G1H1 指指導案指指導
	17	水	音楽	A2	家庭	家庭	B2		E1F1C1D1A1B1G1H1 指指導案指指導
	18	木	C2	理科	体育		D2		G1H1F1C1D1A1B1G1H1 指指導案指指導
	19	金		E2	英語	体育	音楽	F2	A1B1C1D1E1F1G1H1 指指導案指指導
	20	土							
B	21	日							
	22	月		図工	G2	H2	理科	委員会活動	C1D1A1B1G1H1 指指導案指指導
	23	火	理科	A3		B3	体育	クラブ活動	E1F1C1D1A1B1G1H1 指指導案指指導
	24	水	音楽 (長田総論)	(長田総論)	家庭	家庭	C3	D3	G1H1F1C1D1A1B1G1H1 指指導案指指導
	25	木		学年代表者参観 (理科)	学年代表者参観 (全)	学年代表者参観 (全)	E3		H1F1G1C1D1A1B1G1H1 指指導案指指導
	26	金		F3	英語	体育	G3		F1G1C1D1A1B1G1H1 指指導案指指導
	27	土							
A	28	日							
	29	月	図工	観劇会	観劇会		H3		H3授業反省会
	30	火	理科				体育		
	31	水	音楽		家庭	別れの会 (家庭)	字估	字估	実習終了日